



会社ご案内資料

2021年5月版

株式会社キャンバス

会社概要・強み・事業モデル

キャンバスの強み (1) 基礎研究と臨床開発の連携サイクル

 独自に創出した複数の化合物を臨床開発段階に進めている実績

- ✓ 本社に研究所と動物実験施設を有し基礎研究に注力
- ✓ 米国FDA規制下での臨床開発体制を社内に構築（外部協力機関の効率的な活用）



キャンパスの強み (2) がん免疫に着目したパイプライン戦略

中長期の企業価値の源泉として重視

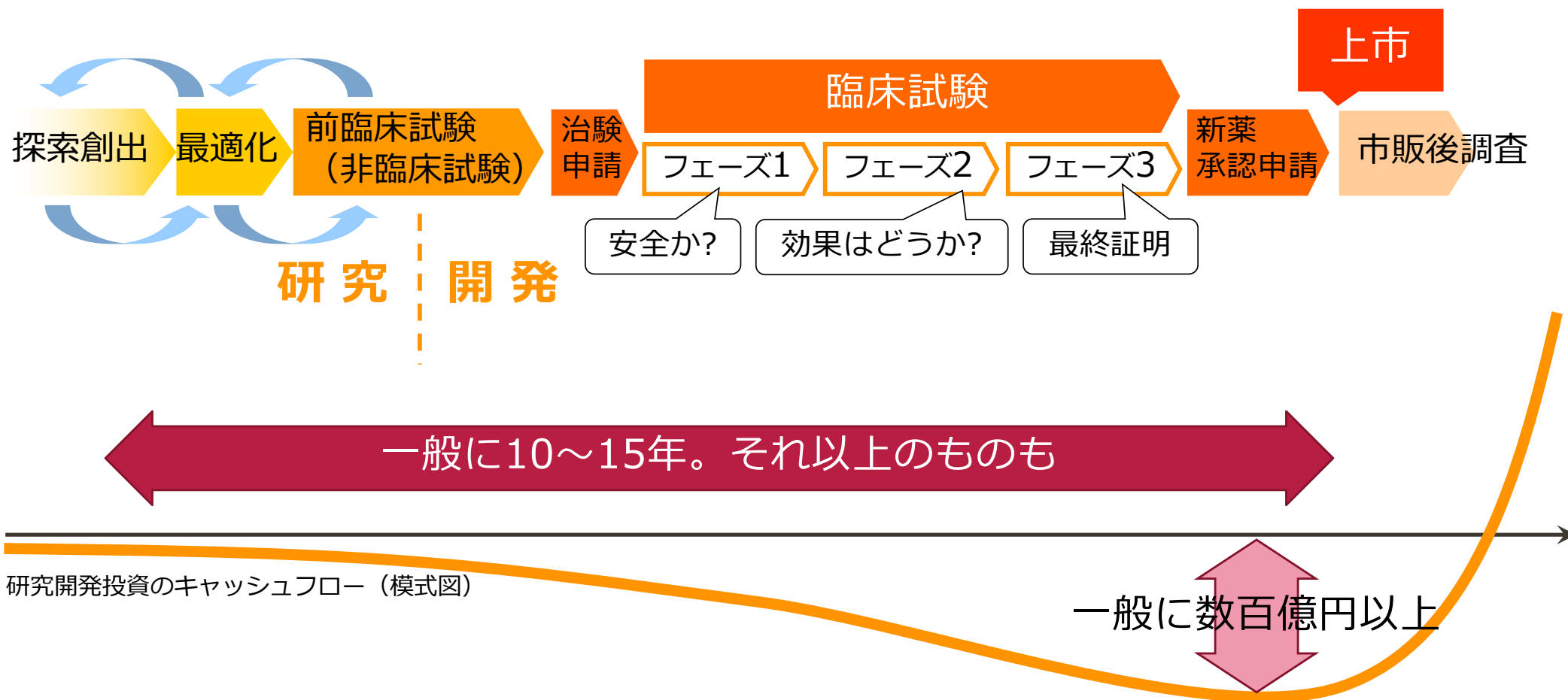
	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究
CBP501				フェーズ1b試験投与終了 第2相試験開始直前	
CBS9106	前臨床試験終了し導出済み			フェーズ1試験実施中	ステムライン社
CBP-A08	最適化終了				
CBP-B					
IDO/TDO阻害剤 ほか※					静岡県立大学

※ このほか、NEXTプロジェクトなどががん免疫領域で広く基礎研究を展開

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究にも着手
（2020年8月4日公表） <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1868281/00.pdf>

キャンパスの事業モデル (1) 創薬の流れと開発投資・時間軸

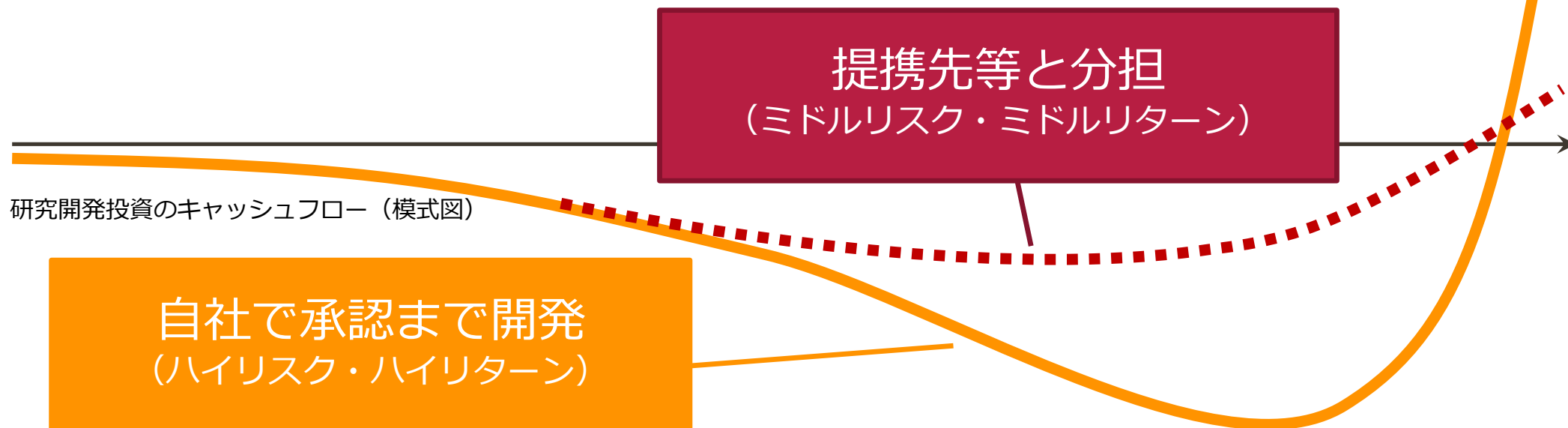
「創薬」の流れ



キャンバスの事業モデル (2) 柔軟な開発シナリオ分岐

自社で創出から後期開発まで進められる

- 開発パイプラインごとの開発段階・成功確率・費用見込などに沿って使い分け、中長期的な企業価値の効果的な最大化を図ることが可能
- CBP501は提携獲得活動継続中。自社で承認まで開発するシナリオも選択肢に入れ得る状況
- CBS9106は提携先負担で開発、将来のマイルストーン収入とロイヤルティ収入を見込む



創薬パイプラインの状況

免疫着火剤 CBP501

- 米国での自社臨床試験の進捗と成果
 - ✓ フェーズ1b試験組入れ終了と速報データ公表（2020年9月24日・12月17日）
 - 膵臓癌3次治療以降で良好な結果 病勢コントロール43%・白血球数正常値患者群でOS中央値5.9ヶ月 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1884672/00.pdf>
 - MSS直腸大腸癌 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1914008/00.pdf>
- **好感触を踏まえ、臨床第2相試験準備と提携獲得活動を活発化しています**
 - ✓ FDAとのエンド・オブ・フェーズ1ミーティング実施（2020年11月18日公表）
 - ✓ 第2相試験計画概要公表（2021年2月16日） <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1936063/00.pdf>
 - ✓ FDAより第2相試験開始許諾（2021年4月1日） <https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1950363/00.pdf>

可逆的XPO1阻害剤 CBS9106（Felezonexor）

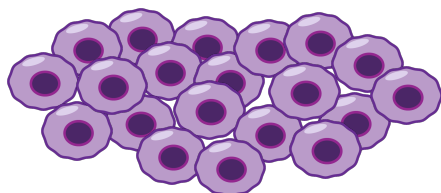
- 提携先Stemline社による臨床試験の進捗ESMO2020発表（2020年9月23日公表）
 - ✓ 臨床第1相試験 進行中
- **血液癌や特定のXPO1突然変異癌を対象とした試験が計画されています**



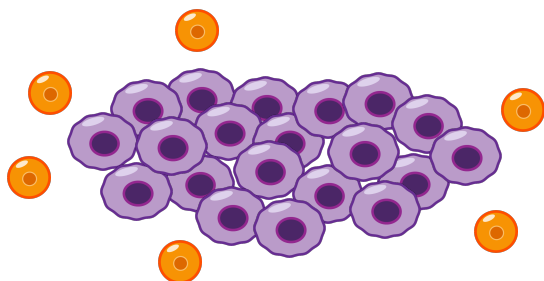
免疫着火剂 CBP501

免疫系抗がん剤を効きやすくするしくみ

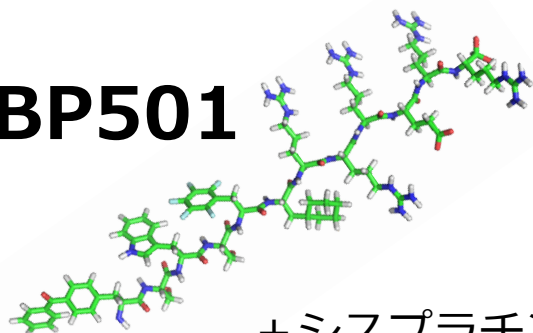
攻撃するための
T細胞がない
免疫砂漠



T細胞ががん組織に
入り込めていない
免疫排除



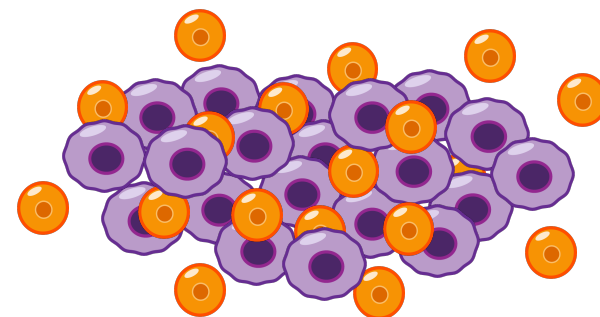
CBP501



+ シスプラチン

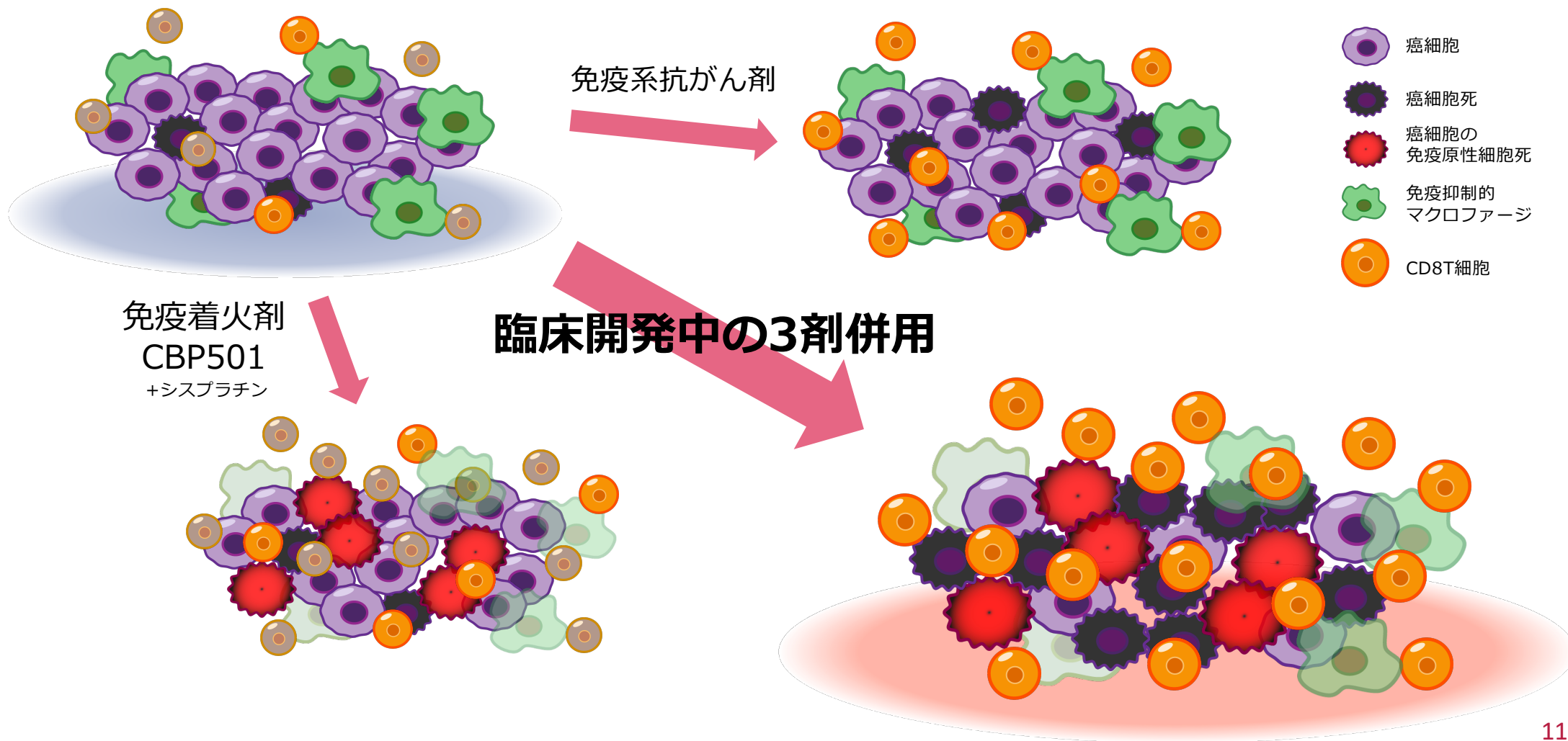
免疫コールドながん
を
免疫ホットながんに

T細胞が十分に
がんを攻撃できる
免疫ホット



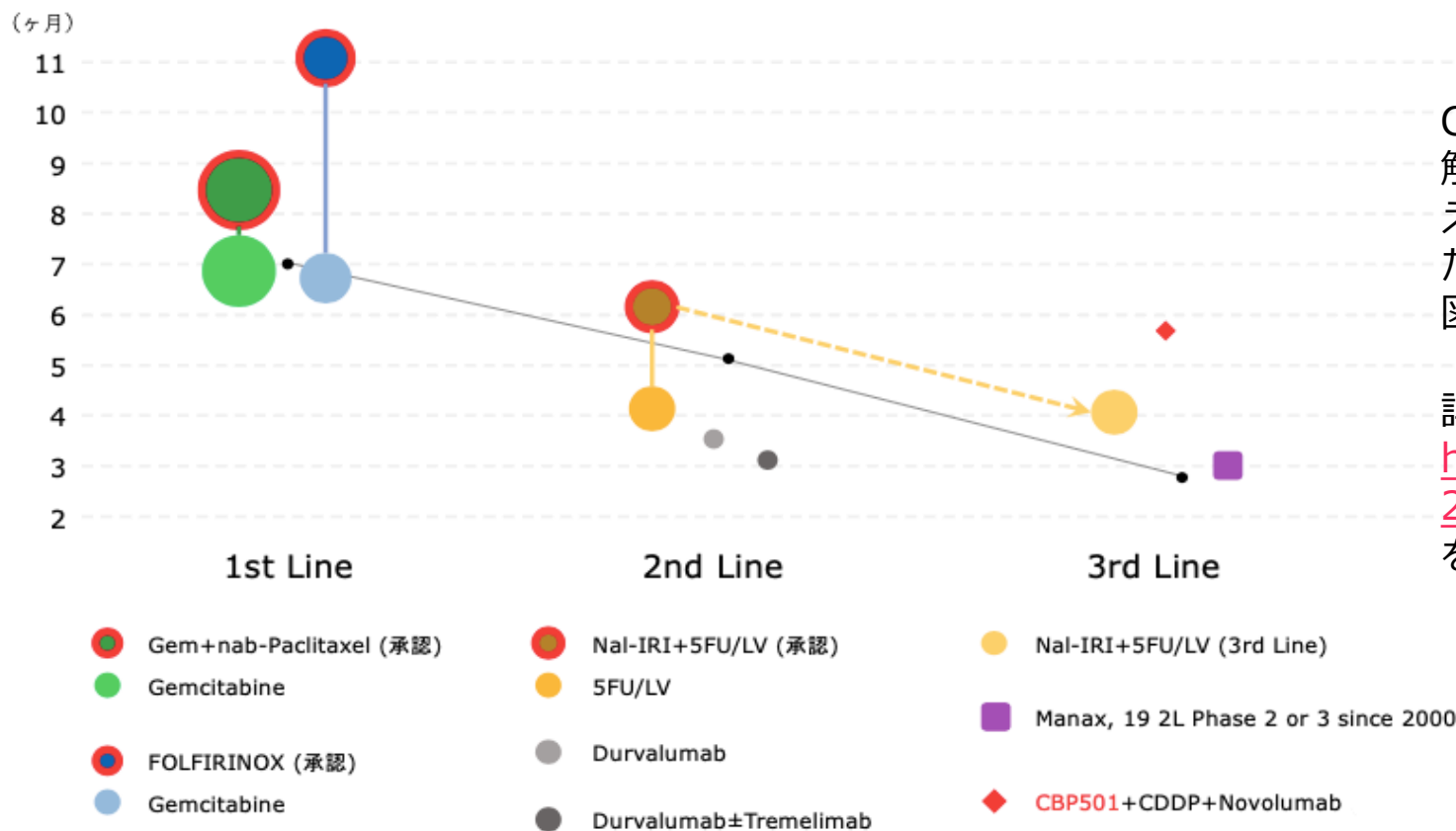
癌細胞 CD8T細胞

CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



CBPフェーズ1b試験のデータ（膵臓がん）

CBP501フェーズ1b試験中間解析 同種の膵臓癌臨床試験結果との比較（全生存期間）



CBP501フェーズ1b試験の中間解析結果を、比較に適すと考えられる他の臨床試験で示された全生存期間（OS）との比較で図示したものを。

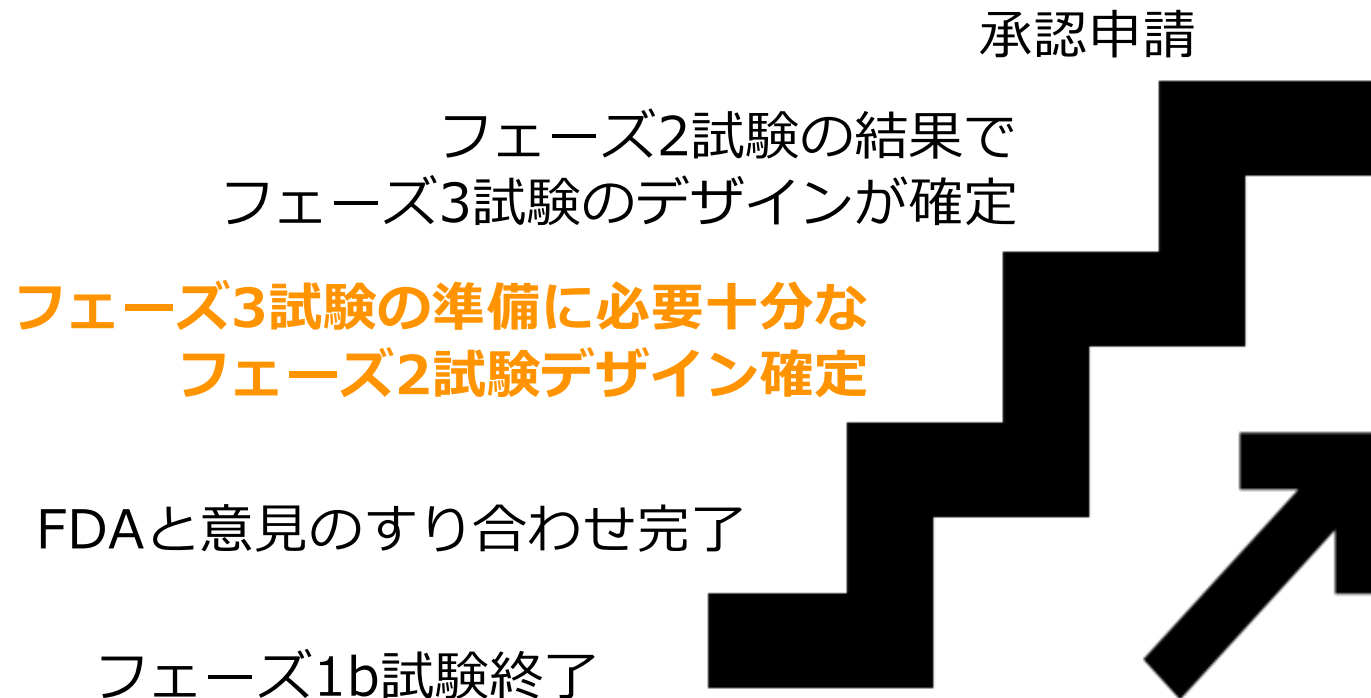
詳細説明はブログ

<https://www.canbas.co.jp/20200514/>

をご参照ください。

CBP501臨床開発プラン (1) フェーズ2試験の準備状況

 FDAとのミーティングで意見のすり合わせができ、承認への道筋が明確に



特徴① 必要十分な4つの投与群設定

- 必要な試験をやり残さない
- 不必要な試験をしない

↑ FDAとの認識擦り合わせの成果

特徴② 中間解析を実施する

- 「早期有効中止」「早期無効中止」
- 最短の試験終了を目指す

CBP501臨床開発プラン (3) 特徴① 4つの投与群 -1

FDA議論(1) 各薬剤寄与の確認 → 3投与群でOK



CBP501臨床開発プラン (4) 特徴① 4つの投与群とは -2

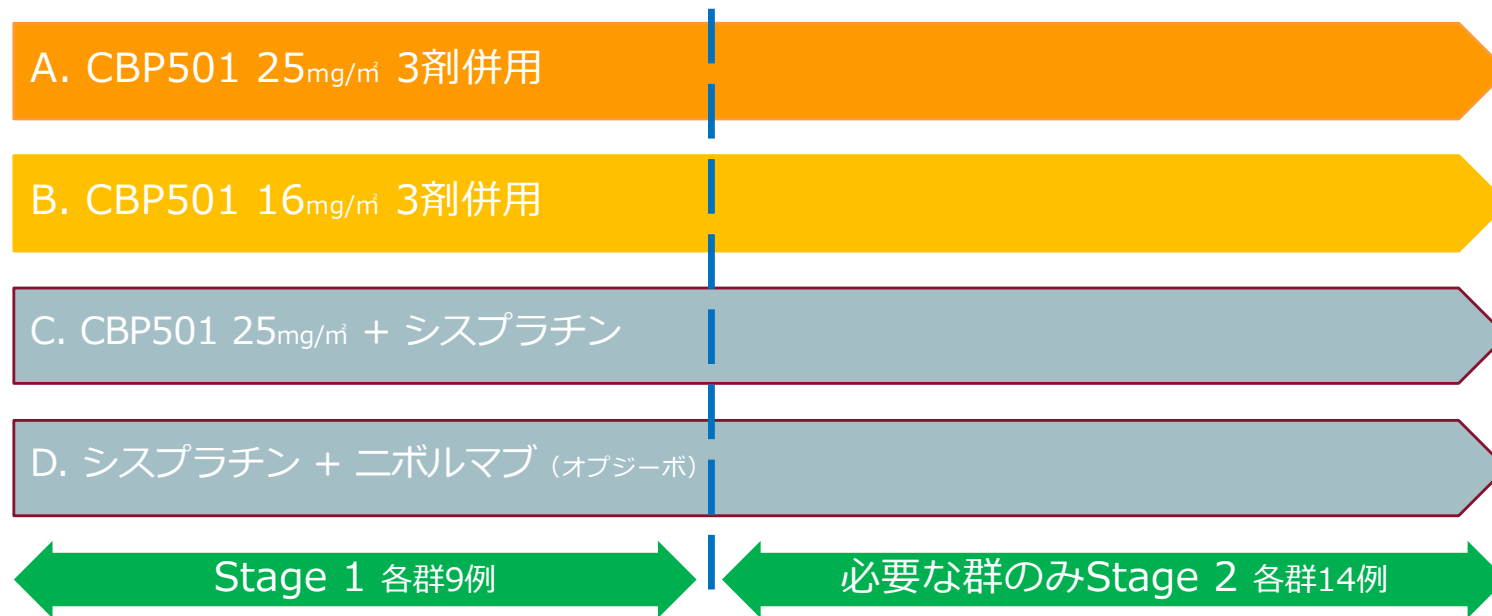
FDA議論(2) CBP501至適投与量の確認 → 1投与群追加



4投与群による臨床第2相試験で
臨床第3相試験の検討に必要なデータを獲得できる

CBP501臨床開発プラン (5) 特徴② 中間解析

📌 中間解析で「早期有効中止」「早期無効中止」を設定

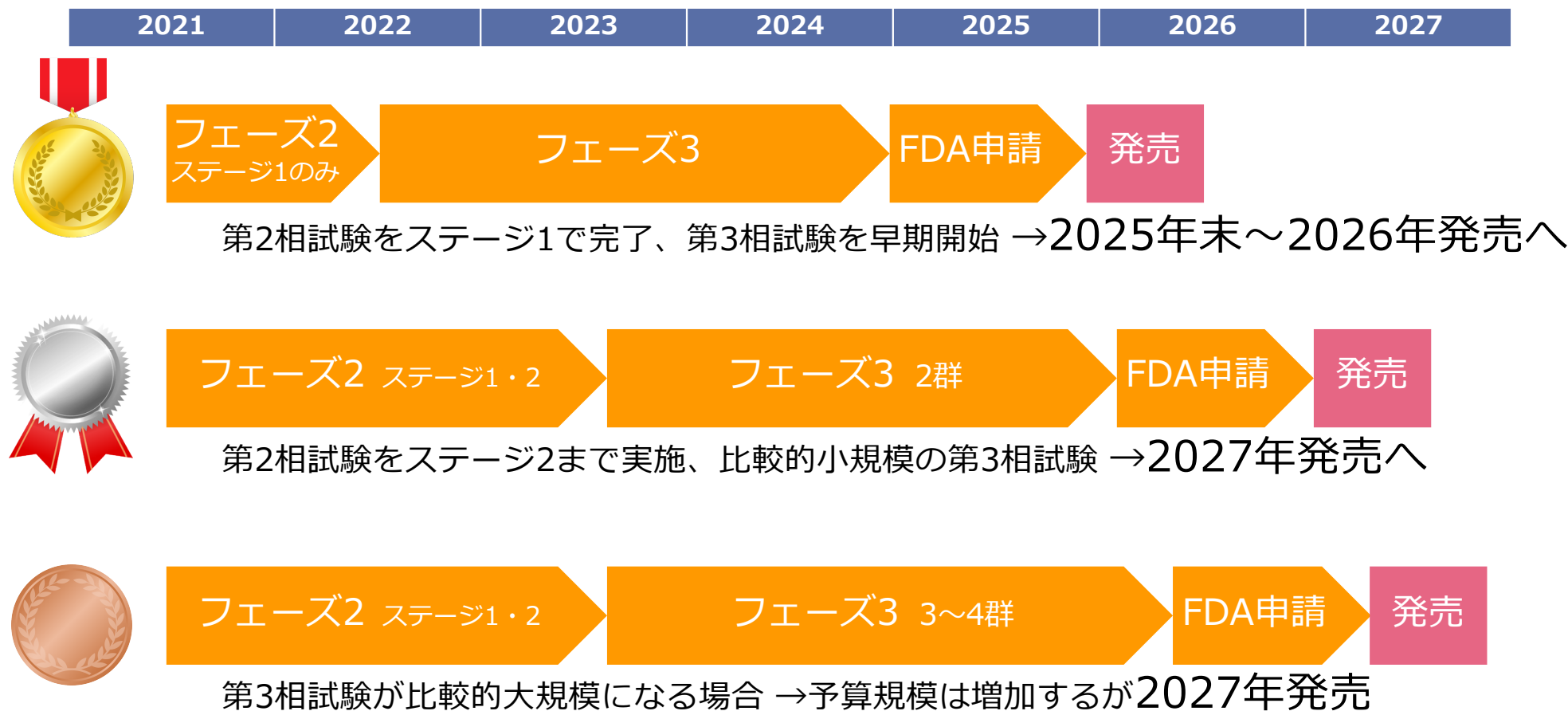


利点 (可能性)

- ・ 早く結果が得られる・試験期間を短くできる
- ・ 全体の登録症例数を少なくできる
- ・ 臨床試験費用を抑制できる

CBP501臨床開発プラン (6) 承認・発売まで

フェーズ2試験以降の時間軸



その他の研究開発

基礎研究～非臨床試験段階のパイプライン (ピックアップ)

➤ CBP-A08

- ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索

➤ IDO/TDO二重阻害剤

- ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。COVID-19新規治療薬への用途拡大研究にも着手

➤ NEXTプロジェクト

- ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出

➤ 抗がん剤感受性予測システム

- ✓ 患者様個々の体細胞変異情報を用いて抗がん剤治療の結果を予測する
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4575/tdnet/1944800/00.pdf>

決算・財務の状況

前期業績のポイント

- CBP501は開発段階で、将来の大きな収益を生むための先行投資赤字を計上
 - ✓ 有効な薬剤の少ない末期膵臓がんのフェーズ1b試験で好感触を獲得
- 現状の収益はライセンス供与済み化合物CBS9106のアドバイザーフィー
 - ✓ ライセンス先ステムライン社（米国）がフェーズ1試験を推進中

		前期比	%
事業収益（売上高）	110 百万円	△5 百万円	△4.8 %
営業利益	△566 百万円	△33 百万円	
経常利益	△573 百万円	△39 百万円	
当期純利益	△572 百万円	△116 百万円	

2021年6月期第2四半期の業績

第2四半期業績のポイント

- CBP501・・・フェーズ1b試験費用支出は一段落
 - ✓ FDAとのディスカッションで将来の承認への道筋が明確に見えた
 - ✓ フェーズ2試験の準備を本格始動
- 事業収益はCBS9106アドバイザーフィー6ヶ月分

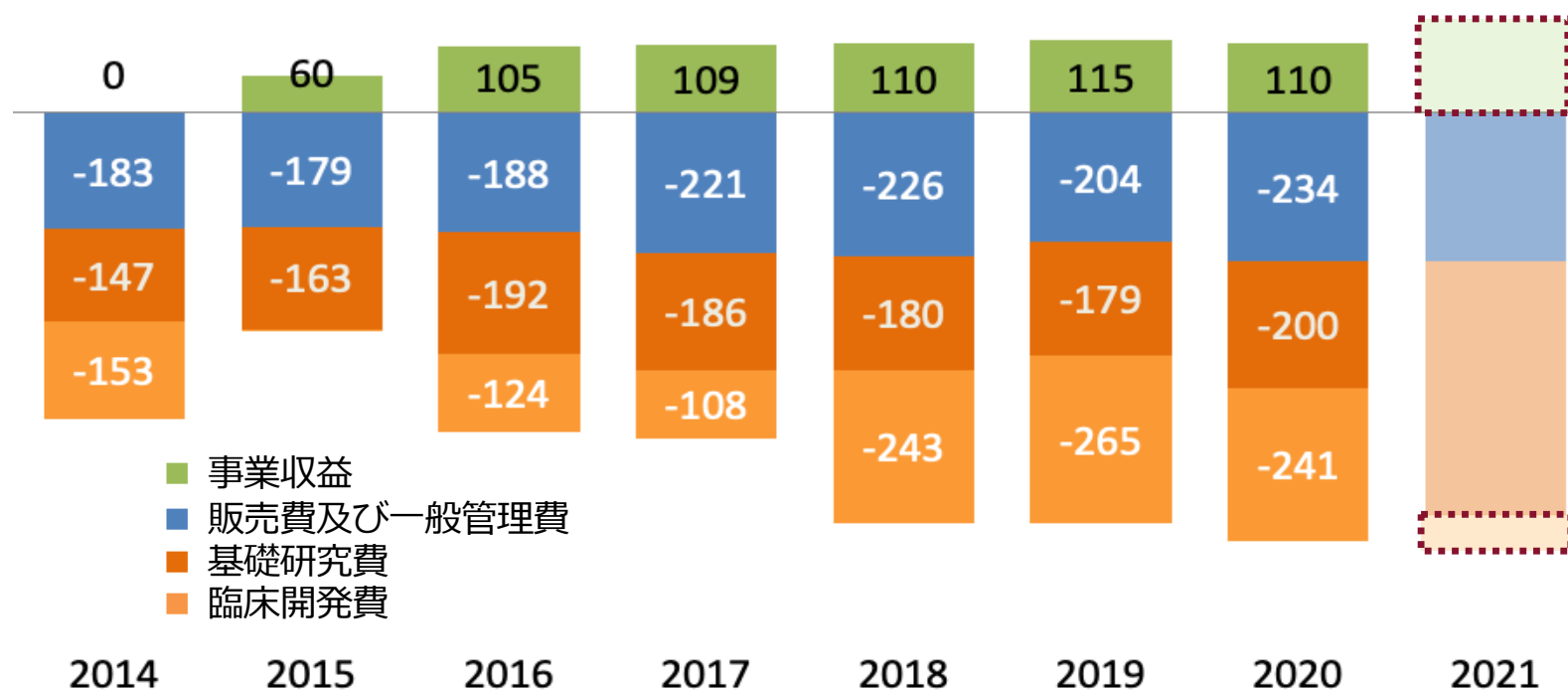
		前年第2四半期比	%
事業収益 (売上高)	55 百万円	+ 0 百万円	+ 0.0 %
営業利益	△ 328 百万円	△ 61 百万円	
経常利益	△ 330 百万円	△ 59 百万円	
純利益	△ 310 百万円	△ 38 百万円	

2021年6月期の業績予想

不確定要因が多く業績見通し非公表

- ✓ 事業収益・・・提携獲得による上積み実現に向け活動中
- ✓ 事業費用・・・フェーズ2試験の2021年央開始に向け準備を加速

➤ 新型コロナウイルス感染拡大の影響はない



キャンパスの企業価値

創薬企業の価値 ≡ 開発パイプライン価値の総和

➤ 開発パイプライン価値

- ✓ 開発パイプラインの成功（上市）可能性
- ✓ 成功までの時間軸
- ✓ 上市後の市場規模
- ✓ 独占期間 . . .

創薬企業の本質的な事業は、上記のひとつひとつを改善し、
中長期的な企業価値を最大化すること = 開発の進捗

CBP501のパイプライン価値

➤ 成功（上市）可能性

- ✓ フェーズ2試験をクリアしフェーズ3試験に進む可能性・キャンバス試算
 - CBP501がフェーズ1b試験と同等の力をフェーズ2試験で発揮した場合・・・98%
 - CBP501がフェーズ1b試験の2/3しか力を発揮できなかった場合・・・78%
- ✓ フェーズ3試験の成功確率
 - 抗がん剤のフェーズ3試験成功確率・・・33.0%*

* “Clinical Development Success Rates 2006-2015” Biotechnology Innovation Organization, Amplion, Biomedtracker)

➤ 成功までの時間軸

- ✓ 最も速く進行した場合* 2025年末～2026年の発売を見込む
 - *フェーズ2試験をステージ1で完了、第3相試験を早期開始した場合
- ✓ 他のシナリオの時間軸は本資料 p.18参照

キャンバスの企業価値 (2)

CBP501のパイプライン価値 (続き)

➤ 上市後の市場規模

✓ 米国のみでピーク時900億円の収益を見込めると試算

膵臓癌 3次治療 米国患者数	4.7万人以上
×	
薬物治療を選択する患者の割合	20%~70%
×	
来院しない患者を考慮	80%程度が来院を継続
×	
CBP501の獲得するシェア	ピーク時の市場シェア60%
×	
投与期間	4カ月以上
×	
ひと月の薬剤費	200万円前後 (オニバイドを参考)

キャンバスを知る情報源

- ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp> ※2021年4月リニューアル
マネジメントブログ <https://www.canbas.co.jp/blog/>
- 公式ツイッター <https://twitter.com/canbas4575>
- アナリストレポート
 - フェアリサーチ
最新版『免疫着火剤CBP501：新薬申請に向けた視界が開ける』
<https://column.ifis.co.jp/company/132165>
 - シェアードリサーチ
<https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- TV出演
 - 日経CNBC『攻めのIR Market Breakthrough』
<https://www.youtube.com/watch?v=tZbSEhhyutI>



■将来見通し等に関する注意事項

- ▶本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- ▶本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- ▶業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- ▶本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

■お問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当
Email IR@canbas.co.jp